

2025年

風光れ

人権のたより 通算第77号 3月 1日発行

三重県立津東高等学校

さて、いよいよ令和6年度、最後の「風光れ」です。

○人権は遍在（へんざい）する。～今年度の「風光れ」のネタばらし～

4月号で、「自分が自分らしく生きていく。“人権”と聞くと、『ちょっと難しそうだなあ』と思うかもしれませんが、自分のこととしてみなさんと一緒に考えていきましょう。」という一文から始まった人権のたより、「風光れ」。一年間どうだったでしょう。

ある人は言いました。「人権問題から目をそらすことはできる。しかし、それ（人権）から逃げることはできない。」と。このような書き方をすると「面倒くさい」と思う人も多くいると思います。しかし、実際には「人権」という言葉は使わないものの、「人権」にかかわる事柄や「人権」に気付くきっかけは、私たちの周りにたくさん存在しています。

そして実は、今年度の「風光れ」にも記事のタイトルとは別に意図的にそれを狙った書き方をした部分も多くありました。

例えば前回、2月号の書き出し～諱（いみな）は「春風（はるかぜ）」、字（あざな）は「暢夫（ちょうふ）」～…というのも格好をつけたわけではなく、「諱」や「字」とは何か、また、「名前」とは何か興味を持って調べる人がいれば、そして、そこから現在の通名や苗字（名字）、キラキラネームなど、名前にかかわるさまざまな「人権」問題に気付くきっかけになれば、というねらいもあつての書き出しでした。

そこまで気にして読んでいる人はいないと思う人もいるでしょう。しかし、思い出してください。9月号の月に関する内容での「月の見た目の大きさは5円玉の穴の大きさ」に疑問を持った人がいたことに。（そして10月号でその「答え合わせ」として「無意識への気づき」を書かせていただきました。）これに限らず、これまでの「風光れ」の内容や提示された資料、あるいは文中の単語そのものに疑問や興味を持った人もいることと思います。

「人権は遍在（へんざい）する。」だからこそ、今年度の「風光れ」は多種多様な内容で書かせていただきました。皆さんはこれからたくさんの出来事に出会うことができるでしょう。そこには直接「人権」という言葉は出てこないかもしれませんが。しかしそこには「人権」にかかわる事柄や「人権」に気付くきっかけは必ず含まれています。

一年間、ありがとうございました。

2024年度「風光れ」内容とタイトル

- | | | |
|------|--------------------------|----------------------|
| 4月号 | ○ 新年度のあいさつ | |
| 5月号 | ○ いじめ反対の日 | ○ バラの花ことば |
| 6月号 | ○ 男女共同参画週間 | ○ 大谷吉継と石田三成 |
| 7月号 | ○ 人権 LHR | ○ ゲルニカ |
| 8月号 | ○ 渋谷栄一と「青い目の人形」 | ○ パリオリンピック・パリパラリンピック |
| 9月号 | ○ 月は出ているか？ | ○ 男女共同参画に関する国際的な指数 |
| 10月号 | ○ 「国民体育大会」から「国民スポーツ大会」へ | |
| | ○ それ、本当に正しい？「無意識」に気付く大切さ | |
| 11月号 | ○ 著作物？著作権？ | ○ 「怪獣使いと少年」 |
| 12月号 | ○ 第76回人権週間 | ○ 「無冠の帝王」 |
| 1月号 | ○ 令和七年 乙巳 | ○ 世界点字デー |
| 2月号 | ○ おもしろきこともなき世をおもしろく | ○ 国際母語デー |

